

地区交流会 ^{ひと} ^{ひと} ~男と女ともに築く地域社会へ~

男女共同参画市民協議会では、区政執行機関への女性の参画を推進するために、意見交換や学習会を開催するお手伝いをさせていただいています。機会を作っていたいただいた前神宮寺区長の方、前北真志野区長の金子さんありがとうございました。多くの区の皆様と交流したいと考えていますので、ぜひお声をかけてください。

11月1日(土) 於：神宮寺公民館 平成20年神宮寺区長 原 英 充さん
 年初に男女共同参画市民協議会よりアンケート結果の報告をいただき、議決機関に女性が参画している区がほぼ市内の半数にのぼる事実を認識いたしました。私共の区においては、公民館運営委員会等の活動においては、女性の参画がありますが、区政の議決機関である協議会は、総て男性が担当する状態が続いております。女性の参画は時代の趨勢と想い、より踏み込んだ現況を理解し、今後の私共の区政運営を考える情報を共有したく、協議会メンバーと男女共同参画市民協議会の方々と交流会を申し込み実施し、女性参画のメリットを理解することが出来ました。当区に於いても今年、保健補導委員(女性)からの要望で公民館の分煙禁煙が実現致しました。今後の女性ならではの視点からの区政への参画意欲に期待し、将来の女性協議員誕生の風土作りに取り組みたい思いを強くした有意義なひと時でした。

11月5日(水) 於：北真志野公民館 平成20年北真志野区長 金子 松 国さん
 市民協議会9名北真志野区20名で交流会を開きました。正副区長・協議員などを経験された方や経験中の方の話聞いて、市内の動向を知ることが出来ました。当区では12月上旬に次期役員を選出しますが、4つの常会ごとに役員を選出しており、選出方法は統一されていません。懇談会が活かされたかという点、残念ながら慣習・しきたりなどで変化がありませんでした。今までは役職に適した年代が大勢いたのですが、社会情勢の変化により減少し、同じ役職を複数回経験する人も出てきています。これを避けるためにも女性に参加していただかなければなりません。区政を担うのは男性ではなく、区民一人ひとりなのだと考えてもらうためには、一歩一歩解決しなければならないことが多くあります。市・関係団体の応援が必要だと思っておりますので、よろしくをお願いします。



編集後記

9月のいわゆるリーマンショック以来、世の中が変ってしまった。アメリカ発の経済危機の影響で、テレビで毎日派遣切りに関する映像を見ない日はない。妻から「パパの育児奮戦より、レストランに合わないように仕事第一にしてね。」と言われかねない風潮である。こんな時代だからこそ誰もが暮らしやすい男女共同参画社会の実現に向けて立ち向かいたい。
 2月28日(土)には「ALWAYS続・三丁目の夕日」の上映会がある。人が生きていく上で大切な人と人の暖かいつながり、それが昭和30年代の日本にあった。家族で見てね。乞うご期待!



～男女がともにいきいきできる社会をめざして～

ともに生きる諏訪市民大会

11月22日(土) 湯小路いまいき元気館

～男女とも楽しく子育てができる社会へ～

「経産省の山田課長補佐、ただいま育休中」の著者山田正人さんに「パパの育児奮闘記」～パパだってがんばってます！～と題してご自身の育児休暇中のエピソードや遭遇したトラブルなど熱心に講演いただきました。続いて山田さんを交えて保育園保護者会連合会前会長山田和成さん、現会長藤森孝子さん、男女共同参画市民協議会鴨志田明子会長に、子育てについて語り合っていました。



子育てに思う

諏訪市保育園保護者会連合会前会長 山田 和成 さん

昨年度、諏訪市保育園保護者会連合会の会長を務めました。それまでも子育てや保育園の行事等関心はありましたが、1年間活動してそれまで以上に子どもと向き合う良い機会でした。

子育ては子どもが成長するばかりでなく、夫婦共々成長する機会ともなりました。仕事で子どもと接する時間が短くなったときもありましたが、子どもに関心を持つことでちょっとしたしぐさや言葉に成長を感じ、妻と喜びを共有できたことは良い体験でした。

人にはそれぞれ得手、不得手があり、男性や女性の特性もありますが、我が家では動ける環境にある側、時間が取れる側が動くこととして子育てをしています。

面倒と思うこともありますが、子どもとともに過ごす時間を共有することは楽しいことで、今後お互い協力し合いながら子育てを続けていければいいと考えています。

講演会に参加しての感想

諏訪市保育園保護者会連合会会長 藤森 孝子 さん

今回の講師の山田先生が全国の保護者から注目されるのは「育児は女性がするもの」という従来の観念を「男性(父親)も平等に育児をするべきだ!」と自ら実践されたことだと思います。私の夫も山田先生同様、積極的に育児に関わってくれます。理解ある夫のおかげで仕事をしながらの子育てがとても楽しいです。

この講演会に参加して、子どもに対して「過保護」「無関心」にならないように、親自身も子どもと一緒に成長しなければいけないと再認識しました。子どもの個性という色を色鮮やかにするのも、色褪せさせてしまうのも私たち親の責任です。私にとっての育児の醍醐味は、子どもが日に日に成長していく姿を一喜一憂しながら間近で感じられることです。

『日本女性会議2008とやま』に参加して

～煌く人とひと 連なる峰々へ～

○開催日 10月17日(金)～18日(土)
○場所 富山市オーバード・ホール外

何年ぶりかでの富山市へ。駅や町のあちこちでボランティアの方々が同じ色のジャンパーを着て親切に案内されており好感が持てました。県と市が一体となってこの大会を成功させた感がありました。

開会式は伝統芸能「越中おわら」の風の盆踊りのアトラクションがすてきでした。18日の記念講演は「土のひびき」と題して加藤登紀子さんが音楽活動を通してのヒット曲、百万本のバラ他3曲歌っていただいた中で土に生きた夫への想い、自然の大切さなども聞かせていただき良い大会でした。

藤森 春江さん



全国各地から2,600人余りが出席し、盛大に大会が行なわれました。「男女が共にささえ合う社会の実現」をスローガンに各分科会が行なわれ、私は昭和女子大学学長の坂東眞理子先生の「女性の品格～装いから生き方まで～」を受講しました。先生は「品格」とは、まず「第1印象」で外観・姿・形。次が内面「心」であるとおっしゃいました。身だしなみに気をつけTPOに合わせた装い・体形・姿勢・表情などが大事で、内面からにじみ出る豊かさ・美しさが自然に出てくることが「品格」として重要であると言われました。坂東先生の話聞き、日常の生活態度に気をつけて過ごしたいと思いました。

武田なつ子さん

「国際社会とメディアの役割」をテーマにジャーナリスト大高末貴氏の講演と、北日本放送ラジオセンターの相本芳彦氏との対談を拝聴しました。大高氏は世界各国取材した体験から日本のメディアが伝えない国際情勢について自身撮影の写真を織り交ぜて話され、メディアは世界の事をもっと日本人に知らしめないといけないのではとも。対談では、全ての真実が報道されている訳ではないので、それを見抜く目や聞く耳が必要。見る努力、聞く努力、写っている物を裏側から読み取る必要ありと解き、これからのものの見方について大変参考になりました。日本の神道のことにも触れられ「祓え給え清め給え」「魂みがき」などにも愛おしさを込めて話されたこと、子ども達に日本の良さを教える必要性を強調されたことなどで、強く印象に残る内容でした。

久保田正彦さん



【解説】

日本女性会議とは…1975年の「国際婦人年」と「国際婦人の10年」を契機に、1984年に名古屋市で第1回大会が開催されました。以来、毎年市民と行政の連携と協働のもと、女性の社会的地位の向上・男女共同参画社会の実現をめざして、全国各都市で開催されています。来年度は大阪堺市で開催されます。